

令和元年度第2回江南区地域公共交通検討会議 会議概要

日 時	令和元年 12 月 2 日 (月) 午後 3 時～午後 4 時	会 場	江南区福祉センター 2 階多目的ルーム
出席者 (敬称略)	<p>【委員等】石崎 覚・小野 正博・塚原 洋子・豊岡 克・荒井 春男・杉本 克己・田村 唯次・乙川 良太・阿部 大志・三田 啓祐・長谷部 一裕・塩原 隆太郎・佐々木 紀彦・比企 博明・西山 富也・丸田 喜之・藤崎 三七雄 (以上 17 人)</p> <p>【事務局】江南区地域総務課係長・同課副主査 (以上 2 人)</p>		
傍聴者	0 人		
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次第、出席予定者名簿、座席表</li> <li>・「江南区生活交通改善プラン」改定案</li> <li>・「江南区生活交通改善プラン」完成イメージ</li> <li>・江南区の公共交通 (将来のイメージ)</li> <li>・基本方針と成果指標</li> <li>・第 1 回江南区公共交通検討会議 会議概要</li> </ul>		
議事	<p>○「江南区生活交通改善プラン」改定案について</p> <p>資料に基づき説明、意見交換を行った。 (両川地域バス運営委員会)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これからのプランは 3 年間ということだが、よりスピードアップするということか？</li> </ul> <p>⇒市の上位計画であるにいがた未来ビジョンや区ビジョンまちづくり計画が 3 年後 (2023 年) に終わり、新しい計画が策定される。公共交通については、区のまちづくりと連動していく必要があることから、新しいプランも上位計画が終了するタイミングに合わせて 3 年間の計画になっている。(事務局)</p> <p>(横バス協議会)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空白域と言われているところがあるが、自治会の方から声が上がってこないと公共交通は充実しないと感じている。そういった空白域の地区に区役所がアンケートやニーズ調査をしてもらおうとありがたい。</li> </ul> <p>⇒アンケート調査については、行政が主導で行う部分もある。昨年から中学校区ごとに人口減少対策のワークショップを開催している。すでに両川地域と大江山地域で行い、「公共交通」が課題として認識され、大江山地域では自主的にアンケート調査を行った。地域に公共交通が必要かということも含め地域が主体になってもらうことも必要と思う。(事務局)</p> <p>(フィールド観光)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・両川と大江山で、社会実験を手伝ったが 1 年で終了となった。大江山では 1 年経つ頃ようやく地元の人達と意思疎通ができたが、収支率が悪いため打ち切りとなり悔しい思いをした。もっと地元の人達との話し合いをしていれば良かったと思う。両川の方は、新潟交通路線バスも走っているので新潟交通ともよく話し合</li> </ul>		

っていくことでよくなっていけばいいと思っている。

⇒この5年間で社会実験をしてきた地域では、住民の皆さんの意向等をはっきりとしないで進めたところがあり、それは区としても反省点だと感じている。特に人口が少なくなっている地域ではどのような交通体系が必要かを住民の皆さんと調整して進めないと、市としてもそれに補助金を出すのである程度の利用が必要。

どのような形が良いのかを地域と一緒に進めていきたい。(事務局)

⇒前回の会議が終わった後に地域の検討会を行った。この少子高齢化の環境では、路線バスは難しいと感じている。高齢者の通院と買い物など最低限の生活交通の確保が必要だろうという結論になった。地域の個人タクシーの活用も検討している。(両川地域バス運営委員会)

⇒大江山地区では昨年地域の人達がどういった意識をもっているか、どういったニーズがあるかを知るためにアンケートを実施した。今後、各自治会長に結果内容を報告して、どういった対応ができるかなど検討する。(大江山地区バス運営委員会)

### ○「江南区生活交通改善プラン」での成果指標について

資料に基づき説明、意見交換を行った。

(横バス協議会)

- ・成果指標に区バス・住民バスの利用者数があるが、タクシーの事が出ていない。タクシーの利用実態はわかるのか。

⇒一般的にタクシーの乗客数はバスの乗車数の3分の1程度。(さくら交通)

⇒タクシー事業者は市内22事業者あり、毎月運送人員を報告しているが、乗車場所、降車場所までは抑えていない。抽出も簡単ではない。(新潟市ハイヤー・タクシー協会)

(新潟市ハイヤー・タクシー協会)

- ・公共交通空白不便地域の解消を目的とするのであれば、公共交通カバー率の上昇などを指標にするほうが良いのではないか。また、利便性向上を目標とするのであればトリップ数に対する自家用車利用の減少ではないかという気がする。

⇒移動実態調査は、平成23年度と28年度に実施しているが、調査1回につき、相当な経費が必要。マイカー依存率は他都市と比較してもかなり高い状況なので、それをより低くする取り組みは重要だが、次回の調査時期や内容は今後の検討となる。今事務局で設定している区バス・住民バスの利用者数は確実に把握できる。確実にところではこういった指標を掲げつつ、補足で分担率などの指標が設定できるかは我々含めて今後検討する必要があるかと考えている。また、空白域の解消というところで、「停留所から300m離れている」「鉄道駅から500m以上離れている」ところは公共交通空白域と定義し、空白域がどのくらいあるのかという数字はわかるので、指標として検討しても良いのかと考えている。(都市交通政策課)

(事務局)

・目標値の部分については、トリップ数だと、江南区だけに限らない部分も出てくるかと思う。本庁とも確認しながら最終的な指標を設定したい。また、公共交通の空白域の部分については、大きな基本方針として掲げているので、この空白地域を減らすことは大切だと認識している。この5年間で社会実験等をしてきた中で、公共交通を充実していくために一番大事なものは地域の熱意だと感じている。市が空白域を解消しようと策を練ってもそれが地域のニーズと合致していないと本格運行にはつながってこない。地域の皆さんと一緒にあってどのような形が適しているのかを探っていくことが必要になる。その中で、空白域が減ってくれば、結果として解消できましたと言えるのではないかと考えている。それらを含め最終的なプランをお示しする。